

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 16 日現在

機関番号：32608

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23531174

研究課題名(和文) 地歴科世界史における問題探究型学習モデルの開発とワークショップ活用に関する研究

研究課題名(英文) Research on Development of "Problem-researching Type Study" Model and Practical Use of Workshop on World History

研究代表者

田尻 信一(Tajiri, Shinichi)

共立女子大学・家政学部・教授

研究者番号：10436800

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,500,000円、(間接経費) 750,000円

研究成果の概要(和文)：文部科学省は、新学習指導要領に基づく教育課程において、改善の具体的事項として、思考力・判断力・表現力の育成と言語活動の充実をあげている。グローバル化や多文化化の進展に対応した学習方法を「問題探究型学習」と呼ぶ。本研究では、「問題探究型学習」モデル開発のための研究と研修会の実施を行った。

私は、「問題探究型学習」モデル開発の研究成果として、『歴史的思考力を伸ばす世界史授業デザイン』(明治図書)、『探究的世界史学習の創造』(梓出版社)を刊行した。探究型授業を紹介する研修会として、最終年度に以下の活動を行った。新潟県、長野県、埼玉県で教員研修の講師を務めた。横浜市と新潟市で研修会を開催した。

研究成果の概要(英文)：The MEXT is raising training of thinking power, judgment, and power of expression, and fullness of language activities as a concrete matter of an improvement in the curriculum based on a new Course of Study. I call the study method corresponding to progress of globalization or multiple-cultur esizing "Problem-researching Type Study." In this research, research for "Problem- researching Type Study" model development and enforcement of study session were performed. I published World History Lesson Design which Lengthens Historical Thinking Power (Meiji Toshu, 2012), and Creation of Research World History Study (Azusa Shuppansya, 2013) as the result of research of "Problem- researching Type Study" model developme nt.

As study session which introduces an investigated type lesson, I performed the following activities. It a cted as the lecturer of teacher training in Niigata Prefecture, Nagano Prefecture, and Saitama Prefecture. Study session was held in Yokohama-shi and Niigata-shi.

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：地理歴史科世界史 問題探究型学習 ワークショップの活用 世界史の単元開発 教員研修の運営

## 1. 研究開始当初の背景

21世紀の歴史教育、とりわけ世界史教育の使命は、一国主義的な国民教育の枠組みを見直すとともに、グローバル化や多文化化の進展を直視し、それに対応できる人間を育成することである。そのためには、生徒各自が問題意識をもち、その問題の所在を明確にするために情報を精査し探究していくことが求められる。また、生徒各自が探究的活動で得た成果を自己の中に留めて置くだけでなく、それを適切に発信していくことが期待される。報告者は、グローバル化や多文化化の進展に対応したこのような学習方法を「問題探究型学習」と呼ぶ。

高校の教育現場では、学習方法の改善がなされてきたとはいえ、知識注入型の講義授業が主流を占めている。その理由として、大学入試の影響のほか、教員が「問題探究型学習」に対する経験や認識が乏しく、限られた授業時間の中で「主題を設定して行う学習」をどのように立案し実践していったらよいかの戸惑いが強いことを指摘できる。今次改訂の学習指導要領の趣旨を日常の授業でどのように実現させるかは、今後の大きな課題である。

## 2. 研究の目的

高校では、新学習指導要領(2009年告示)に基づく高校教育課程が2013年度から全面实施された。今次改定では、地理歴史科(以下、「地歴科」と略記)世界史Aでは、導入の段階で地歴科他科目の関連付けや興味・関心を涵養するための学習(「(1)世界史へのいざない」の「ア 自然環境と歴史」、「イ 日本列島の中の世界の歴史」)が、まとめの段階で主題を設定し探究する学習(「(3)地球社会と日本」の「オ 持続可能な社会への展望」)が置かれるとともに、世界史Bでも主題を設定して行う学習がすべての大項目に置かれ、考察活動による世界史学習の意識付け(「(1)世界史への扉」)、追究活動による歴史学習の基本的技能の習得と活用(「(2)諸地域世界の形成」の「エ 時間軸からみる諸地域世界」、「(3)諸地域世界の交流と再編」の「エ 空間軸からみる諸地域世界」)、「(4)諸地域世界の結合と変容」の「オ 資料からよみとく歴史の世界」)及び探究活動(「(5)地球世界の到来」の「オ 資料を活用して探究する地球世界の課題」)が目指されることになった。

本研究では、今次改訂の柱とされた「問題探究型学習」モデルの開発のための研究と、その普及をはかるための地歴科の教員や教職(地歴科教員)を目指す学生を対象としたワークショップ(参加型実践的研修会)の実施を目的としている。

## 3. 研究の方法

本研究では、2013年度から年次進行で実施された高校の新教育課程に基づく地歴科世界史授業についての提案である。そして、以下の方法に基づいて研究を行うことにした。

先ず2011・2012年度(初年度・2年度)の2カ年は、カリキュラム論、世界史内容構成論及び学習スキル論の視点から、世界史(世界史A、世界史B)学習における「問題探究型学習」について、文献研究・事例研究を行った。そして、探究型世界史学習の単元開発を進め、その成果を社会科教育系の学会報告や論文、著書として発表した。

2013年度(最終年度)は教員を対象に質問紙調査を行い、地歴科の探究学習についての意識や実施状況を調査し、現場の実態とニーズに即したワークショップ(参加型実践的研修会)の形態について研究を行った。また、2013年度の後半に、「問題探究型学習」の視点からの単元開発事例の紹介や共有化を目的に教員や教職をめざす学生を対象とするワークショップを開き、研究成果の公表と普及に努めた。

## 4. 研究成果

本研究では、中学校社会科及び高校地歴科・公民科を担当している教員(主に歴史教育を担当している教員)を対象に、2013年6月から2014年3月にかけて、歴史思考力や探究的学習に関する質問紙調査を実施した(調査人数:204人)。上記調査で着目された結果について、以下に示す。

**あなたが歴史的思考力として最も重要である能力は何だと思いますか(回答の多い順)。**

- ・時代や社会の構造把握、歴史事象の因果関係の理解・考察などに関する能力 65人
- ・社会変革やよりよき未来の建設に向けての未来思考力、意思決定力、行動力 29人
- ・歴史に対する興味・関心や歴史学習に対する意欲 29人

(以下、略)

**あなたは、ここ5年間の歴史系授業において、歴史的思考力の育成に向けての取り組みを行っていましたか。**

- ・行っていた方だ。 12%
- ・どちらかと言えば行っていた方だ 38%
- ・どちらかと言えば行っていなかった方だ 28%
- ・行っていなかった方だ 8%
- ・その他 7%
- ・未回答 7%

**中学校社会科の歴史分野や高校地歴科の世界史・日本史で、歴史的思考力の育成をめざした授業はどのようになると思いますか。**

- ・増加する 26%
- ・どちらかと言えば増加する 45%
- ・どちらかと言えば減少する 3%

・減少する	2%
・変わらない	18%
・その他	6%

歴史的思考力育成を目指した授業作りを行っている(行っている、どちらかと言えば行っている)教員は5割であった。また、歴史的思考力育成を目指した授業は増加する(増加する、どちらかと言えば増加する)と考えている教員もほぼ同様の結果(48%)となった。これらの回答が5割にとどまったことの理由として、大学受験が暗記を前提とした知識再生型問題であることや、教員の探究的学習に関する知識や技能への不足やそのことへの不安が指摘できる。質問紙調査の分析結果は、本研究が目指す「問題探究型学習」モデルの開発と、その普及をはかるための教員を対象としたワークショップ(参加型実践的研修会)の実施の必要性を裏付ける結果となった。

本研究では、頭書の目的を達成するために、以下の研究と活動を行った。

「問題探究型学習」モデル開発の研究成果として、2012年に福井憲彦、田尻信壹編『歴史的思考力を伸ばす世界史授業デザイン』(明治図書)、2013年に田尻信壹『探究的世界史学習の創造』(梓出版社)を上梓した。また学術論文として、田尻信壹「ESDと世界史教育」(『社会科教育研究』113、平成23年)、田尻信壹「単元『黒死病と14世紀の世界』の構想」(『新地理』61-1、2011年)等を発表した。刊行本については、研究成果の公開と普及を図るために、現在及び以前の勤務地の関東・北陸地区の公立図書館、約30館に寄贈・献本した。

最終年度(2013年度)には、本研究の成果の公表と普及を目指して、以下の研修会で講演を行い(実施順に掲載)講師を務めた(、)。また、参加型実践的研修会として以下の研究会を企画し、実施した(は学生対象、は教員対象)。

新潟県高教研歴史分科会(2013年8月23日、参加者は約40名)  
 長野県社会科研修講座(同年11月29日、参加者は約30名)  
 埼玉歴史研究会(2014年3月8日、参加者は約30名)で教員研修の講師を務めた。  
 JICA 横浜海外移住資料館(横浜市)で社会科・地歴科の教職を目指す学生を対象とした「博物館を活用した地歴科教材開発のワークショップ」を企画し開催した(2013年11月17日、参加者は約50名)。  
 新潟市万代市民会館(新潟市)において、新潟県内の高校教員に呼び掛けて「世界史教育研究会」を企画し主催して、考える世界史授業の実践事例の提案を行った(2014年2月16日、参加者は約20名)。  
 「世界史教育研究会」の活動については、

「新潟日報」朝刊(地元新聞)にその活動が紹介された(同年2月17日)。

以上の研究成果より、本研究は当初の目的をほぼ達成できたといえる。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計3件)

福山文子、田尻信壹、グローバル時代の幼児教育に求められる教材・教具 文化多様性に親しむ実物教材に着目して、共立女子大学家政学部紀要、査読無、60、2014、141 - 153.

田尻信壹、単元「黒死病と14世紀の世界」の構想 新学習指導要領地歴科世界史Bにみる「地図活用」、新地理、査読有、61-1、2013、59 - 68.

田尻信壹、ESDと世界史教育 環境の視点が世界史に問いかけるもの、社会科教育研究、査読有、113、2011、95 - 106.

[学会発表](計10件)

田尻信壹、世界史と地理との可能性 新学習指導要領地歴科世界史の「内容」にみる「地理との関連付け」、日本地理教育学会シンポジウム、日本女子大学目白キャンパス、2012年10月13日.

田尻信壹、黒死病と14世紀の世界 世界史B「空間軸からみる諸地域世界」の単元構想、日本社会科教育学会第62回全国大会、東京学芸大学、2012年9月30日.

本研究の成果として行った講演、研修会指導について、その一覧を以下に示す。

田尻信壹、探究的世界史学習の単元開発(研修会講師) 埼玉歴史研究会、2014年3月8日.

田尻信壹、これからの歴史教育(研修会講師) 長野県総合教育センター、社会科教育研修講座、長野県総合教育センター、2013年11月23日.

田尻信壹、世界史教育の課題 新学習指導要領の施行の中で(招待講演) 新潟県高教研地歴公民部会歴史分科会、新潟会館、2013年8月23日.

田尻信壹、これからの歴史教育(研修会講師) 長野県総合教育センター、社会科教育研修講座、長野県総合教育センター、2012年8月30日.

田尻信壹、これからの歴史教育 世界史を中心にして(研修会講師) 長野県総合教育センター、社会科教育研修講座、

長野県総合教育センター、2011年8月25日。

田尻信壹、博物館と歴史の授業 新学習指導要領に盛り込まれた博物館の活用 (招待講演) 国立民族学博物館・日本国際理解教育学会、第7回博学連携連携教員ワークショップ in みんぱく、国立民族学博物館、2011年8月5日。

本研究の成果発表のために、筆者が主催した参加型実践的研修会について、その一覧を以下に示す。

田尻信壹、考える世界史授業、世界史教育研究会、新潟市万代市民会館(新潟市) 2014年2月16日。

田尻信壹、博物館を活用した地歴科教材開発博物館を活用した地歴科教材開発、社会科・地歴科の教職を目指す学生のためのワークショップ、JICA 横浜海外移住資料館(横浜市) 2013年11月17日。

〔図書〕(計2件)

田尻信壹、梓出版社、探究的世界史学習の創造 思考力・判断力・表現力を育む授業づくり、2013、206。

田尻信壹 他、明治図書、歴史的思考力を伸ばす世界史授業デザイン 思考力・判断力・表現力の育て方、2012、127。

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田尻 信一 (Tajiri, Shinichi)  
共立女子大学・家政学部・教授  
研究者番号：10436800

(2) 研究分担者  
なし

(3) 連携研究者  
なし